

(3) 効率性

派遣された専門家の担当分野、協力機関ともにプロジェクト実施中に調整されたほか、また、タイミングについても概ね問題なかった。機材については、維持管理や価格を考慮し、全て現地調達で実施したため、納品までの期間が短縮されたが、業者の納期遅れにより活動計画に影響がでることもあった。カウンターパートについてもCIDECI側の待遇改善などの努力により、離職率を低い水準に維持することができた。半年ごとに実施された合同調整委員会において、プロジェクトのモニタリング結果と今後の進め方を確認したため、効率性が向上した。以上より、投入と活動は適正に計画、実行され、概ね効率的に成果へ転換された。

(4) インパクト

CIDESIによる技術サービスの効果はまだメキシコ国内には広がっておらず、まだ上位目標は実現していないが、本プロジェクトによる技術研修・セミナーの実施範囲はケレタロ州及びその周辺のみならず、すでにメキシコ全土に及んでおり、これら受講者の今後の活動により上位目標の実現が期待される。

このほか、2001年に中南米4カ国およびメキシコ国内から受講者を招聘しての国際セミナーを開催し、その結果各国の中小企業支援を目的とした各関係機関とのネットワークづくりの推進が合意されるなど意図していなかった正のインパクトが発現した。

(5) 自立発展性

メキシコ国内におけるCIDESIの工業生産セクターに対する技術支援の役割及び政策的重要度は以前より高まっており、カウンターパートは自力で中小企業に提供している技術サービス（依頼試験・巡回指導等）の実施及びセミナー・研修の運営管理・評価ができるようになってきているほか、機材の維持管理の技術を身につけている。また、技術サービスによる自己収入はCIDESI全体の運営管理費の19.3%に及んでいるうえ、プロジェクトの対象部門の自己収入はプロジェクト開始年に比べて3倍になっている。さらに、政府補助金による支援もこれまで通り続けられる見込みであることから、プロジェクトで開始された活動の継続的運営に必要な財源は確保される見込みである。以上のことから、組織的、技術的及び財務的自立発展性は今後も確保される見通しである。

3-2 効果発現に貢献した要因

(1) 計画内容に関すること

プロジェクト計画立案の過程で、プロジェクトへ派遣予定の専門家を調査団員として派遣し、個々のカウンターパートの技術力を詳細に調査し技術移転計画を立てたことが、プロジェクト開始当初からの本格稼働を可能にし、実施効率性を高めた。参加型分析と技術専門家による分析を適切に組み合わせたため、完成度の高い計画立案ができた。

(2) 実施プロセスに関すること

- 1) 事前調査から本プロジェクト終了まで一貫して、背景事情に精通した長期専門家を配置したため、プロジェクト運営に有効であった。
 - 2) カウンターパートの資質及び技術習得に対する意欲の高さと、投入された日本人専門家の専門能力の高さが、成果の発現に寄与した。
- 3) CIDESIがその上位機関や監督省庁からプロジェクトへの予算・人事面で全面的支援を取り付けたため、カウンターパートの補充や機材の調達において迅速な処理が可能となった。

3-3 問題点及び問題を惹起した要因

(1) 計画内容に関すること

該当なし

(2) 実施プロセスに関すること

該当なし

3-4 結論

期待された成果はすべて達成されており、プロジェクト目標は達成される見込みであるが、上位目標は未達成であり、今後の受講者の活動による実現が期待される。

3-5 提言（当該プロジェクトに関する具体的な措置、提案、助言）

- 1) 政府機関、教育研究機関、金融機関との連携を一層深め、中小企業振興のための総合的な支援体制を強化すべきである。
- 2) カウンターパートには、自力で企業へのコンサルティング活動を行うための実務経験が不足しており、オンザジョブトレーニング（OJT）を通じての上級コンサルティング技術者養成のため、短期専門家派遣を含む更に数年のフォローアップがなされることが望ましい。

3-6 教訓（他の類似プロジェクトの発掘・形成、実施、運営管理に参考となる事柄）

プロジェクト事前調査の段階で(1)完成度の高いプロジェクトデザインを作成するため、派遣専門家を調査団員として派遣し、カウンターパートの技術力の詳細な把握のもとに技術移転計画を立てる(2)予算・人事面で適切な措置を取ることができる実施機関を選定すること(3)カウンターパートの技術力及び技術習得に対する熱意を詳細に調査すること(4)機材投入計画を詳細に立てることなどが、プロジェクトを成功に導くうえで有効である。

3-7 フォローアップ状況

該当なし